

図1に示した通り、日本は前工程装置のシェアで10年までは米国とトップ争いを行っていたが、その後、急速にシェアが低下していく。22年は米国が49%、日本が24%、欧州が21・3%、韓国が2・1%、中国が0・4%だった。日本のシェアは米国の半分以下になってしまった。

この図から11年以降にシェアを増大させているのは、マスク検査装置しかないことが分かる。この分野で日本のレーザーテックが最先端露光装置EUV用のマスク検査装置を独占し、トップシェアの米KLAに迫りつつある。

それ以外の装置は良

装置、測長SEM、これら全てにおいてシェアが低下している。このように11年以降、シェアが増大している装置は1種類しかなく、2種類が横ばいで、それ以外の全ての装置のシェアが低下している。その結果、口全体の前工程装置のシェアが下がり続け

東京大学)。
この定義に従えば、
企業が競争力を向上させ
ていれば、売上高シ
エアが下がるはずがな
いことになる。逆に言
えば、売上高シェアが
下がっているということ
とは、前工程装置企業
の競争力が低下してい
ることを意味する。そ
して、この現象がほぼ

多くの日本人が強い
と思っていた（今も思
い込んでいる）製造装
置産業が、危機的事態
に直面している。実現
性のないラピダスなど
に無駄に税金を使って
いる場合ではないだろ
うと強く言いたい。

裝前
工
置程

強いとは言えない日本

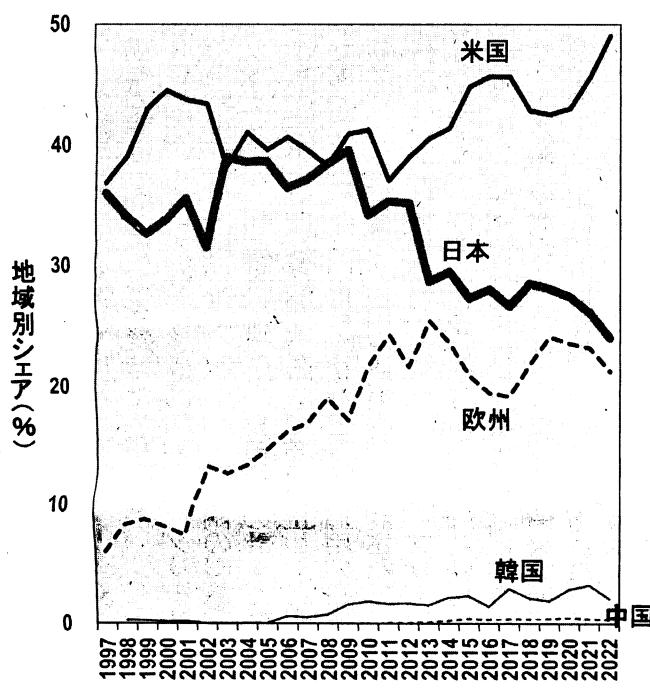


図1 前工程装置の地域別シェア(～2022年)

出所：三菱UFJモルガンスタンレー証券、野村証券のデータ、筆者の調査を基に作成

筆者は2021年6月1日に、衆議院に半導体の専門家として参考人招致され、意見陳述を行った。その際「日本が強いのは製造装置、その部品や設備、製造材料である」「強いものをより強くすることを政策の第1に掲げるべきである」と論じた。しかし日本の製造装置は、もはや強いとは言えない事態に陥ってしまった。

図1に示した通り、日本は前工程装置のシェアで10年までは米国とトップ争いを行っていたが、その後、急速にシェアが低下していく。22年は米国が49%、日本が24%、欧州が21・3%、韓国が2・1%、中国が0・4%だった。日本のシェアは米国の半分以下になっ

の前工程装置のシェアが下がるのが?
この原因を突き止め
るために、各種前工程
装置について11年と20
～22年のシェアをグラ

低下が強いと

「ある企業が提供する個別製品あるいは製品群が、既存の顧客を満足(satisfy)させ、かつ潜在的な顧客を購買へと誘引(attract)する力

ことを目標として、ラピダスをはじめ米欧韓台の半導体大手に補助金2兆円をばらまく政策を行っている。しかし、この計画の実現性は極めて乏しいと言わざるを得ない。

多くの日本人が強いと思っていた（今も思いい込んでいる）製造装置産業が、危機的事態に直面している。実現性のないラピダスなどに無駄に税金を使っている場合ではないだろうと強く言いたい。

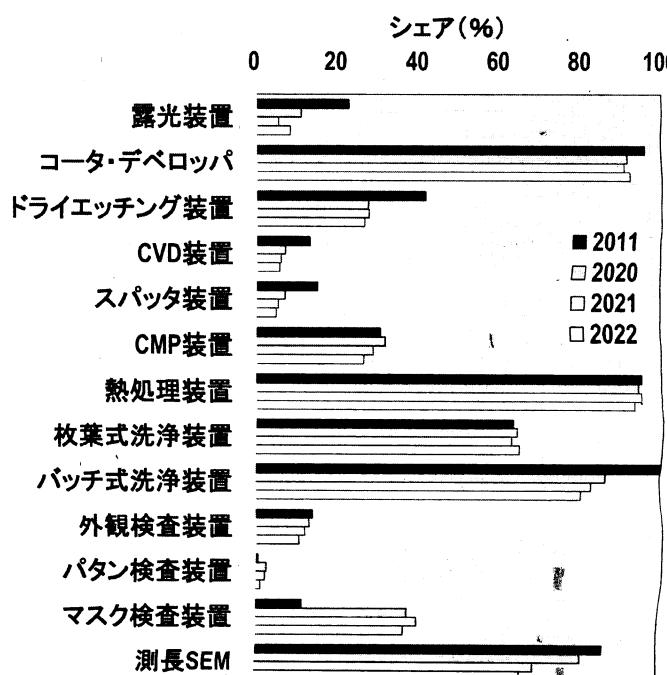


図2 日本の各種前工程装置のシェア
(2011年、2020～2022年)

出所：三菱UFJモルガンスタンレー証券、野村証券のデータ、筆者の調査を基に作成